

(別紙様式)

都道府県番号	35
都道府県名	山口県

(レ)

・ 学校名及び規模

防府市立華城小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	2	26	34
児童数	123	135	158	146	124	151	7	844	

・ 実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・ 主題(テーマ) 確かな学力を培う授業の構築 ～少人数指導における学習集団の編成と指導の在り方(1年次)～</p> <p>・ テーマ設定の趣旨 今年度から実施される新学習指導要領においては、子どもたちに単に知識や技能のみでなく、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力まで含めた学力を身に付けさせることが求められている。こうした学力を一人一人に確実に身に付けさせるためには、多くの知識を画一的に「教え込む授業」から、子どもの個性や特性を配慮した「分かる授業」へと転換することが大切である。子どもの学びへの個別的対応の基盤として、本校では算数科における少人数指導を第一に掲げ、「確かな学力を培う授業の構築」を研究主題に設定した。</p> <p>少人数による学習集団を編成することは、一人一人に手をさしのべる機会も多くなり、子どもを全体的・多面的に理解し、個に応じたきめ細かな指導をすることができると考えた。さらに、学習内容に応じて、学習形態や指導方法を工夫することにより、基礎的・基本的内容の定着を図ることができると考えた。</p>

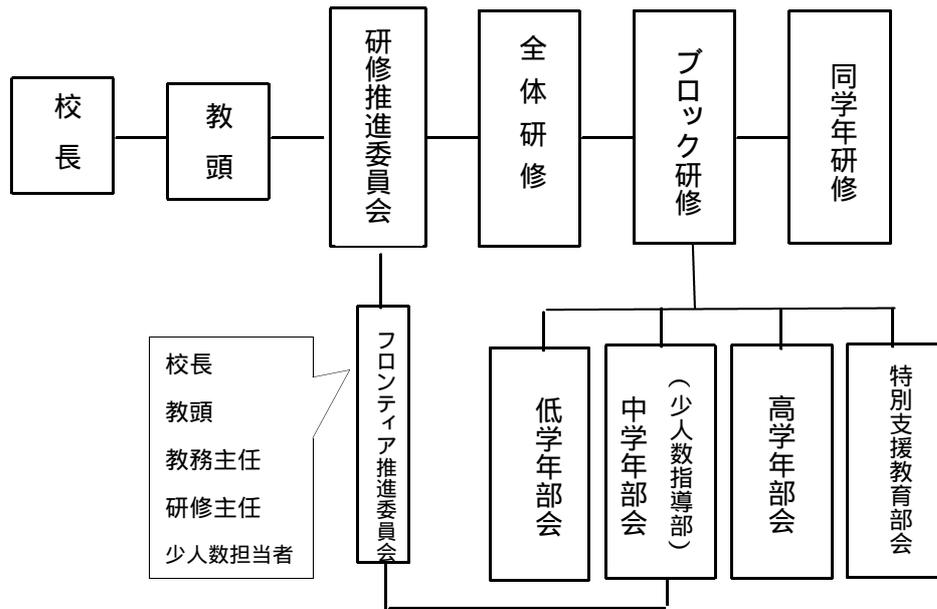
・ 実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

(1) 研究組織

少人数担当者2名は、それぞれ3年部と4年部に所属し、中学年部を中心に研究を進める。校務分掌においては、少人数担当者はフロンティア推進委員会に所属し、校内研究推進委員会や算数部と連携を取りながら研修を推進していく。少人数の指導の在り方についての成果や課題を全校研修に広げる。

研修組織図は次ページ。



(2) 研究テーマ・実践方法等の共通理解

校内研修...少人数指導及び、評価の在り方について(8月)

授業研究 4年「わり算(2)」(10月)

3年「表とグラフ」(11月)

保護者や地域での説明...PTA総会、学校評議員会において説明(5月)

少人数だより(6月、9月、12月)

(3) 配慮した点

少人数担当者の席を3・4年の担任の席と隣り合うように配置し、できるだけ打ち合わせがしやすいようにした。

() 実践研究の内容

(1) 単元ごとの学習集団の編成方法を示した年間指導計画の作成。

どの単元でどのような学習集団を編成するのが効果的かを、授業実践を通して考察する。

学習集団の編成方法

均一型編成

- ・ 各集団にできるだけ差が出ないように教師が編成する。

習熟度別編成

- ・ 習熟度が同程度の児童で集団を編成する。
- ・ 編成にあたっては、コース選択の基準を示し、チェックテストの結果を基に児童に自己評価させ、自分に合ったコースを選択させる。
- ・ コースの選択やコース移動について必要に応じて教師が助言する。

課題別編成

- ・ 課題選択...児童が、教師あるいは児童が設定したいいくつかの学習課題の中から、自分にあった課題を選択する。
- ・ 課題設定...児童が個々に学習課題を設定し、それらを持ち寄って、いくつかのグループを編成する。それを、教師が分担する。

- ・ 順序選択...学習する順序を入れ替えて、どの順番で学習するかを児童が選択する。

学習方法別編成

- ・ 課題をどのような方法で追求するのか、学習方法の違いによって編成する。
1クラス2グループ編成を基本にし、単元によって2クラス3グループ編成・4グループ編成、4クラス5グループ編成を取り入れる。

(2) 評価規準・基準の作成

() 成果と課題

(1) 成果

到達度に見られる成果

「数と計算」領域における習熟度別学習において少人数指導の成果を実感した。

アンケートに見られる成果

指導方法の工夫・改善のため、児童・保護者・教師にアンケートを実施した。どのアンケートにおいても少人数指導は好意的に受け止められており、習熟度別編成に対しても支持する声が高い。アンケートに共通した「少人数指導のよさ」は、次のようなものであった。

- ・ 一人一人に目がいきとどきやすく、きめ細かな指導ができる。
- ・ 子どもの理解度、興味・関心、学習速度に対応でき、個に応じた指導が可能である。
- ・ 質問や、発表がしやすい。
- ・ 個の学びが保障でき、できたという達成感や分かる喜びが得られやすい。

(2) 課題

児童の実態に即した流動的な指導形態

均一型で計画をしても、習熟度別編成に編成し直すなど、児童の実態を第一に考える必要がある。少人数年間指導計画も弾力的に活用する。

発展問題・補充問題の充実

習熟度別で指導した「数と計算領域」などの「技能・表現」においては、少人数指導の成果を実感することができたが、文章題などでの「理解」において、ばらつきが大きかった。文章の読み取りが苦手な児童へのきめ細かな支援がもっと必要ではなかったかと反省される。発展問題・補充問題の充実が課題である。

打ち合わせ時間の確保

週に一回予定されている学年会で少人数指導の打ち合わせを行っているが、日々の指導にかかわることであるため、その日を待ってられないことが多く、顔を合わせたときに打ち合わせをしているのが実情である。少人数指導をより効果的に進めるためには、定期的な打ち合わせ時間の確保が必要である。

一年間を見通した指導計画

2クラスや学年を解体して指導を行う場合など、あらかじめ日課の変更が予測されるものは、年度当初より計画的に準備しておくことが大切である。学校行事との兼ね合いも考慮する必要がある。

() 成果の普及方策

防府市小学校教育研究会算数部における授業研究（11月1日）

防府管内学力向上フロンティア事業地区協議会における研究発表（1月23日）

学校参観者への説明と協議会（1月29日、31日）